

POST CARD

GARDEN WALL

ハンス ベンダ

Hans Benda

2023年7月7日(金)～18日(火)
12:00～17:00【会期中無休】

作家在廊日 7月7日(金)、8日(土)、9日(日)



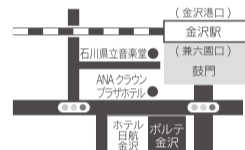
「ウサギが溝を渡ったところ」
2022年 油彩38×41cm

■略歴■

1960 ドイツ、ベルリン生まれ
1987 カールスルーエ州立美術アカデミー修了
1987-1992 ドイツ、ケルン在住
1992-2014 ベルギー、ベルビエ在住
2014 ドイツ、イーダーオーバーシュタインと日本、千葉県いすみ市岬町にて制作活動

アート
玄 羅
g e n r a

〒920-0853 金沢市本町2丁目15-1 ボルテ金沢3F
[ホテル日航金沢横]
TEL/FAX 076-255-0988
E-mail genraart@ozzio.jp
Web <http://genraart.com>



庭の壁

画家のアトリエが憂鬱で後ろ向きな場所になっているのは、絵画と違って、現代のデジタル技術はすべて、最後の決断、最後の最終入力、最後の保存の瞬間しか見せてくれないからです。

一方、ペイントされた画像は、それ自身の創造の歴史を保存しています。塗り重ねられた層は、物質性の中に隠されたままです。

人工知能による画像生成の可能性が出てきた今、絵画的な画像で視覚的な感覚に対抗することは、ますます難しくなっています。その逆を行くしかない。

私は「Hortus Conclusus (ホルトゥス・コンクルスス、囲われた庭)」のようなシンプルな中心構造を使いたいのですが、私の囲われた庭にはマリアはいません。役者は、木々、山々、反射する水面、乱反射する色の空など、同じ風景を常に新しいパリエーションで「パターン」のように繰り返している。

これらの場所は、部分的には創作されたものであり、部分的にはロケ地であり、あるいは写真からインスピレーションを得たものである。つまり、ある山や木や湖を見ているのに、別のものを描いているということかもしれません。それは一種の呪文のようなものなのかもしれない。

私は、誰が、何を守れるのか、守るべきなのか、まだ、あるいはもうはっきりしない(これは同じことだ!)庭に取り組んでいるのかもしれない。明らかに人が住んでいるわけでもなく、空っぽでもない。慣れ親しんだ場所でありながら、新しい場所でもある。それは、ヨーロッパの絵画、宗教、文化が内包する断片の中で、より強固に確立された場所なのだ。

ハンス・ベンダ



「庭の壁」 2023年 水彩画 16.1×28.6cm